

第3回定例会

・一般質問②

※「地域公共交通アドバイザー業務委託事業について」の質問は、紙面の都合上、割愛しました。

物価高騰対策について

新型コロナウイルス禍やロシアによるウクライナ侵攻により、物価高騰が厳しさを増し、住民の暮らしや営業、産業を脅かしています。

値上げは食料品、光熱水費など生活必需品を中心にあらゆる品目にわたっており、この秋にはさらなる高騰も予想されているだけに、町の支援が求められると考え、以下について伺います。

【質問① 水道料金の減免について】

これまでにない物価高騰の影響を受けた全町民への一番の支援策は、湧別町でも打ち出した「水道料金の減免」であると考えることから、この支援策について町の考えを伺います。



但木早苗 議員

【答弁】(町長)

それらの支援策を講じた自治体は、本年5月に国から交付された「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」に創設された、原油価格・物価高騰等総合緊急対策分を活用しているものと思われ、名称どおりの対策費として使い道が定められたものですが、これまでの臨時交付金同様、交付要綱に基づいた自治体独自の事業に活用できるものであり、本町では10月に販売予定のプレミアム付全町共通商品券発行事業と、高齢者世帯生活支援事業に充てることとしました。

国では、各種物価抑制対策にさらなる追加策を講じることで決定され、交付金配分額及び具体的な要綱等が示されましたら、この交付金を有効に活用したさらなる支援策を協議したいと考えています。

【質問② 飼料・肥料等が高騰している農家支援について】

物価高騰は、生活必需品のみならず、飼料や肥料、資材等も高騰し、農家の経営にも大きな影響をもたらしており、国では肥料について条件付きの7割補填ということが検討されているようです。

町長の行政報告にもありましたが、子牛の価格も下がっており、今この状況全般が農業経営を圧迫していることから、町として何らかの支援策を考えているのか伺います。

【答弁】(町長)

飼料に関して、国は6期連続の通常補填と5期連続の異常補填を行っています。補填後も価格高騰の影響は大きいものがあります。

現在のところ、農協では単独支援を考えておらず、町としても同様ですが、今後の情

「配合飼料安定基金」

加入生産者等から積立金を徴収し、それを財源として配合飼料の値上がりがあった場合に補填金を交付し、畜産経営への影響を緩和する制度で、畜産経営者及び配合飼料メーカーが積み立てた基金により運営される通常補填制度と、これによる対処し得ない大幅な配合飼料価格の高騰があった場合に発動され、その一部を国が助成している異常補填制度から構成されている。



第3回定例会

・一般質問①

2名の議員が一般質問を行いました。

(紙面の都合上、質問と答弁は要約しています)

一般質問



渡辺一馬 議員

町防災行政無線の現状について

【質問】

防災行政無線の現状や、放送内容の基準等について伺います。

【答弁】(町長)

受信機の普及率は93・5%、不具合等による交換26台、外部アンテナ設置34台となっています。

放送内容の基準として、緊急放送は災害発生時の避難情報や気象警報など、臨時放送は悪天候等におけるふれあいバスの運休や公共施設の閉鎖などをお知らせし、定時放送は町民全般に関係する行政情報やイベント等の案内も放送しており、重要な情報発信源として適正な管理と円滑な運用を推進してまいります。

合葬墓の現状について

【質問】

合葬墓の現在の利用状況について伺います。

【答弁】(町長)

8月末までの使用許可実績は、町内申請者5件、町外申請者2件の15体で、納骨完了は4件9体となっており、時代のニーズに沿った墓地管理・運営をしていきます。

ごみ収集について

【質問】

燃やすごみについて、暑い時期だけでも市街地区と同様の収集回数にするなど、今後見直しを考えているか伺います。

【答弁】(町長)

燃やすごみの収集量は、昨

かぼちゃ祭りの終了について

【質問】

かぼちゃ祭りの終了について、町長が今思うところを伺います。

【答弁】(町長)

かぼちゃ祭りとして親しまれた「シンテレラ夢まつり」が終了に至ったことは、残念極まりなく、コロナ禍で2年間中止となり、規模を縮小

でも開催できればと願っていましたが、任意の町民で組織する実行委員会から終了の報告を受け、複雑な経過を含んだ組織での決定を受け入れるしかない状況でした。新聞やテレビでも報道され、終了を惜しむ声、なぜやめたのかと理由を求める声など、町内外のたくさんの方からいただき、改めて多くの人に親しまれ期待されてきたことを痛感しました。

いま私が思うことは、祭りの初回から実行委員会にわり、第31回・32回は会長を務め、誰よりもこの祭りを愛してきた私としては、祭りの灯を消したくなかったというのが率直な思いですが、現実を受け止めなければならず、34年間続けられたことで、実行委員のメンバーや常に深い理解と温かい支援をいただいた町民関係者の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

かぼちゃ祭りの歴史に幕を下ろすことにはなりますが、「かぼちゃのまち佐呂間町」の灯は決して消えるものではなく、新たなかぼちゃイベント企画の発案に期待を持ち、最大限の支援をしていきたいと考えています。

町の一大イベントが幕を閉じ残念に思う

長年携わってきた町長が今思うところは

町長：今まで支援いただいた皆さんに感謝

新たなイベント企画の発案に期待